がつて、家屋内の、しかも、限られた所に潜伏場所を持っているわけである。かような生態的特性から考察される潜伏場所に殺虫剤の局所重点残留噴霧を行うならば、充分な効果が期待し得るものと考えられる。かゝる前提を実験的に演者のモデル試験法(1957年)で検討し、予期した結果の得られることを確かめた。また更に、一部に無撒布の潜伏場所が残されているならば、前者に比較して効果は減少する筈であると言う仮定のもとに実験を試みた。その結果、効果の顕著に低減する傾向が認められた。そこで、実際のゴキブリ駆除において駆除効果の大きく変動する要因の一つは、かゝる適用技術にあると云うことが確認されたわけである。なお、この実験には DDVP 0.3%, γ -BHC 0.5%, Dieldrin 0.5% 及び DD T 5% の acetone solution がそれぞれ 50 c/m² 宛供試されている。これらの有効成分の速効性、遅効性と云うことが、また、効果にかなりの影響を与えていることがわかった。次に、注目すべき現象として、実験中に生残虫が殺虫剤を avoid する習性を次第に獲得してくるように思われる点が観察された。この問題に関しては更に検討を行つている。

(予研・衛生昆虫)

北海道産リス類 Sciuridae のノミについて: 大野善右衛門 Ono, Z.: Notes on fleas from Sciuridae in Hokkaido

北海道産リス類 Sciuridae としてはエゾシマリス *Eutamias asiaticus lineatus*, エゾリス *Sciurus vulgaris orientis* の2種類が知られているが、これらの寄生するノミとしては *Monopsyllus indoges* 1種が報告されているにすぎない。1957年に少しく北海道産リス類のノミを調査したところ次の5種をみいだした。1. *Monopsylla indages* (Rothschild, 1908), 2. * *Aenigmopsylla gradekovi* Sychevsky, 1950, 3. * *Tarsopsylla octodecimdentatus* (Kolenati, 1803), 4. *Ctenophthalmus pisticus* Jordan et Rothschild, 1921, 5. *Neopsylla acanthina* Jordan et Rothschild, 1923 (*日本未記録種, 2-5, 本州未記録種)

1, 2, 3はエゾリスから, 1, 4, 5はエゾシマリスから採集された。本州のリスから1.の記録があるが北海道産とは亜種を異にする。各種の形態的詳細は近く刊行される道立衛研報告第10集に発表の予定である。

(北海道衛研)

横浜市のネズミとその寄生ノミ, 特に *X. cheopis* の新棲息地鶴見地区における調査成績: 原田文雄・石井襄二・羽山卓郎・堀口孝雄・千野純男・杉山貞一 Harada, F., Ishii, J., Hayama, T., Horiguchi, T., Chino, S. & Sugiyama, T.: Studies on rats and rat-fleas in Yokohama city, especially on the species, *X. cheopis* found on rats in Tsurumi area

1956年12月, 横浜市各保健所管内で捕虜を行つたところ, 鶴見地区に *X. cheopis* の棲息していることがわかつた。翌1957年には, 専らこの地区の工場地帯に重点をおき, 11月まではほぼ毎月捕虜を行つて, 特に *X. cheopis* の棲息状況を追求した。捕かくされたネズミ総数は183頭で54.6%は *R. norv.*, 他はすべて *R. r. alex.* であつた。ノミは3属3種187匹採集され, うち *X. cheopis* 65.8%, *N. fasciatus* 31.0%, *M. anisus* 3.2%で *X. cheopis* の意外に多いことがわかつた。年間平均ノミ指数(およびケオプス指数)は1.16(0.76)であるが, 最高は12月(東京ガス)で7.25(2.75)に達した。宿主別 (*R. n.*: *R. r. a.*)に指数を比較してみると, ノミ指数は1.04:1.29で *alex.* が高く, ケオプス指数は0.92:0.60で *norv.* が高い。またノミ寄生数は, 両宿主とも8のほうに多い。採集されたノミ3種の月別構成割合をみると, 3・8・9月は *X. cheop.* が優占し, 他の月(但し1, 4, 10は欠)は *N. fasc.* が優占している。これは, 各月における *R. n.* と *R. r. a.* 両宿主のとれた割合に関係がありそうである。即ち *X. cheop.* の寄生は *R. n.* に圧倒的に多くかつ本種の優占する8・9月には *R. n.* の捕かく数も多いからである。次に各工場内における *X. cheop.* の採集状況から推測すると, 本種は *N. fasc.* に比較して棲息場所が孤立しているようにみえる。たとえば鶴見製鉄では送風機室のみから見出され, 東芝では75%が特別食堂から見出されている。これは, 当地区における本種の歴史が, *N. fasc.* にくらべて浅いためかあるいは同一工場内でも特に本種の生存に適した場所(環境)でのみ繁殖するためであると思われる。なお今回調査した当地区5工場のうち, 鶴見製鉄が海外と交通があり海南島, インド, フィリッピンなどから鉱石を輸入しているという。従つて *X. cheop.* は, これらの地域から入りこみ, 当地に土着して繁殖したものと考えるのが妥当であろう。また本種は, 横浜検疫所の調査(1956)によれば, 少数ながら高島地区, 山之内埠頭, 横浜造船からも見出されているので, 将来はさらに分布地域の拡大することが予想される。(神奈川県衛研, 横浜市鶴見保健所, 横浜市公衆衛生課)